

事例研究報告

特別支援学校高等部の 他害行動のある生徒に対する 指導のあり方について



生徒の実態

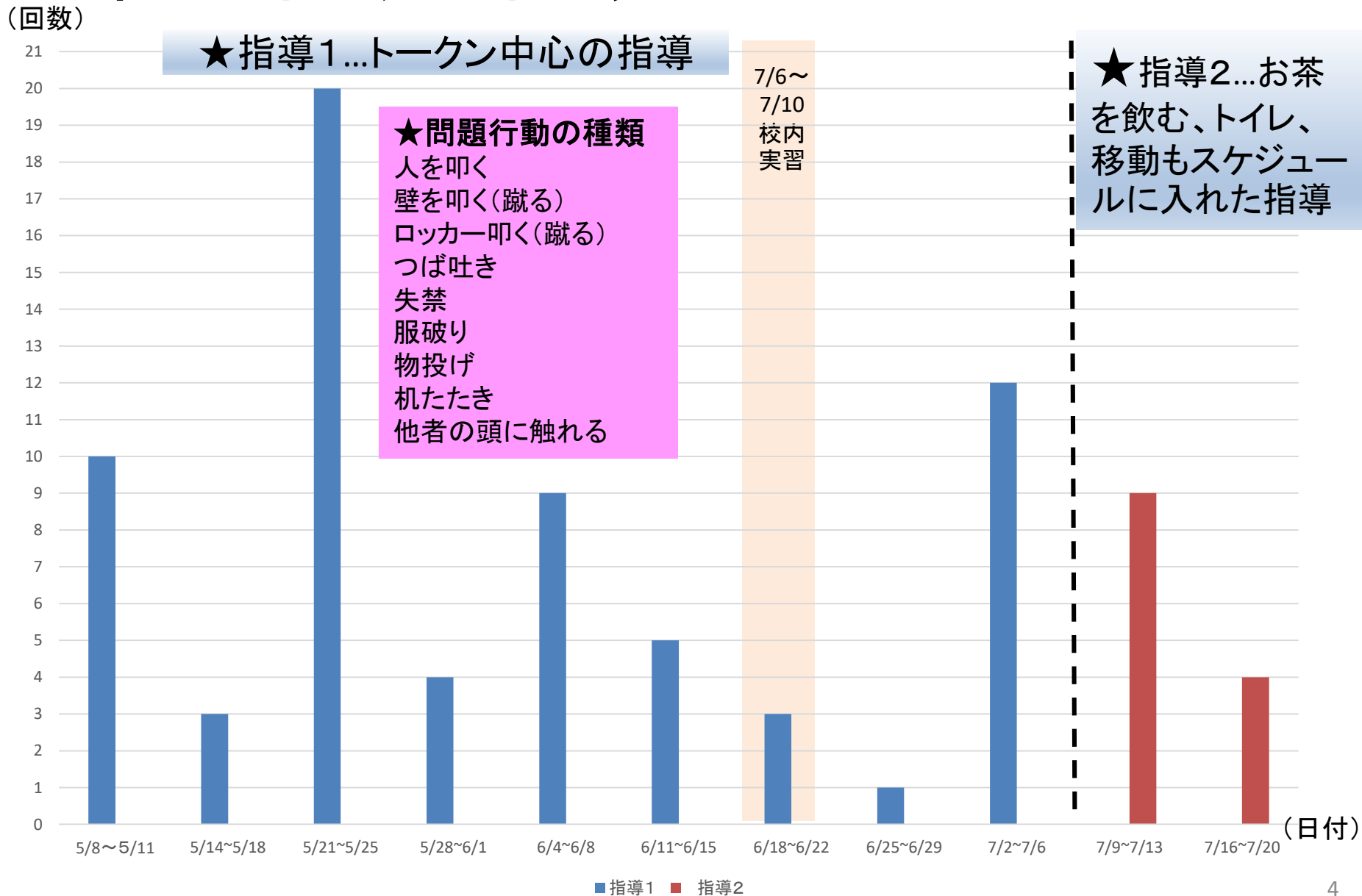
- 高等部生徒 自閉症, 知的障がい
- 受容→簡単な単語の意味は分かる。
文章が長くなると混乱しやすいため,
単語レベルで指示を出している。
- 表出→単語(1~2語文)による言語による要求がある。
- 普段は穏やかで周囲のことをよく見ている。
- ストレスが溜まると問題行動(他害, 破壊行動)や自傷行為がある。

気になる行動

- 人を叩く
- 壁を叩く(蹴る)
- ロッカーを叩く(蹴る)
- つば吐き
- 失禁
- 服破り
- 靴投げ
- 物投げ
- 机たたき
- シールはがし
- 他者の頭に触れる

などが、日常的に増えてきた。

問題行動の回数 (週あたりのトータル回数)



ふと思った・・・

将来、落ち着いて、周りの人と一緒に過ごすことができるように、
学校で何ができるか。

何から手をつければ良いのだろうか。

日々、安定した生活を送ることができるようになってほしいが・・・
問題行動（投げる、蹴る、叩く、頭突きする、失禁、服を破く等）
がまだ多く見られる。

指導目標

問題行動を減らし、スケジュールに沿った生活をおくることができる。

アドバイザーからの助言①

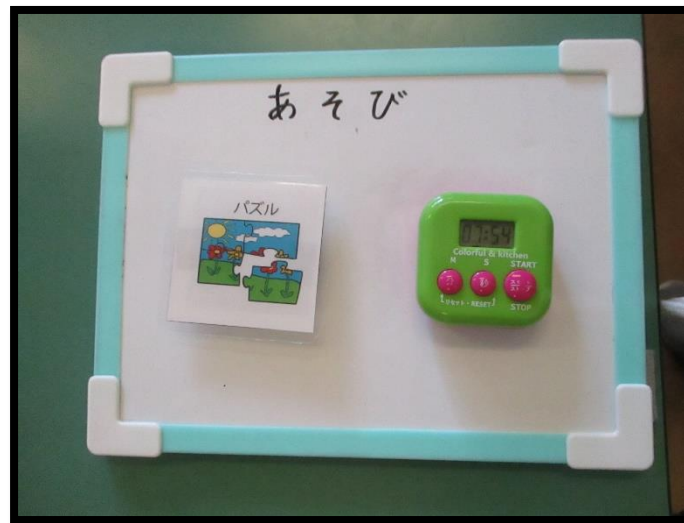


遊びの時間(スケジュールの「あそび」と表記されている時間)のあり方について

- 自由時間は本人によい効果がない。
- 遊びは設定するほうがいい。(好きなことがよい。好きなことに従事することが大切。従事しやすい活動を本人に選択させるのではなく教員が設定する。)

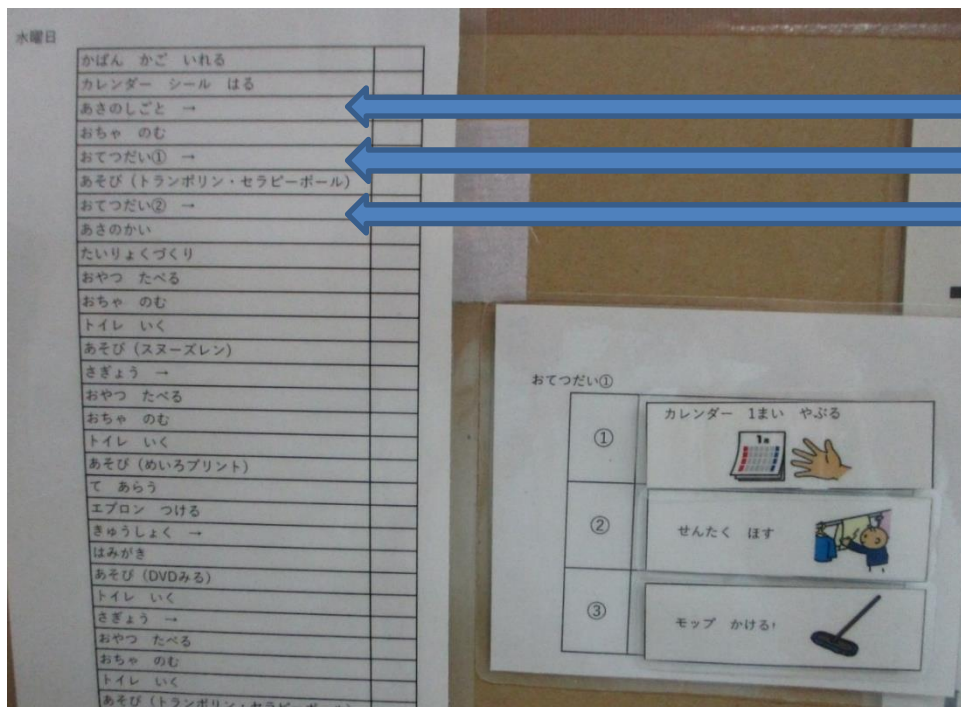
アドバイス①より

あそびの時間は**内容**と**時間**を決めて示すようにした。



アドバイス①より

スケジュール提示では隙間の時間を作らないように細かく提示するようにした。



登校後すぐの時間や下校前の空いた時間に**仕事**や**お手伝い**をいれた。

アドバイザーからの助言②



作業(水曜日3～6時間目)の内容について

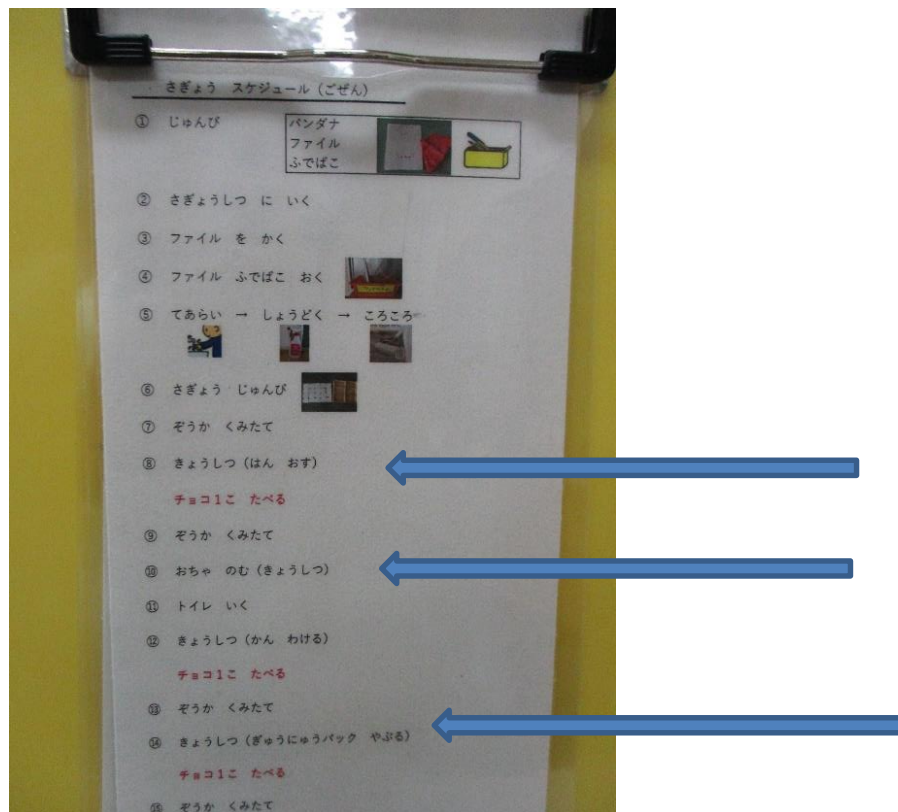
- 他の生徒と同じ作業をすることにこだわらず、違う活動を設定してもよい。
- 生産的な活動でなくてもよい。
- 作業時間中の「遊び」の時間は、全て教室での作業にする。教員が遊びを決める。
- 作業に取り組むことができたならご褒美が獲得できるようにする。

アドバイス②より

改善前 教室で5分間休憩。(フリーな時間)

改善後 教室で5分間指定された作業。

シール貼り・紐通し・印押し・缶の分別・牛乳パック破り・缶踏み



アドバイザーからの助言③

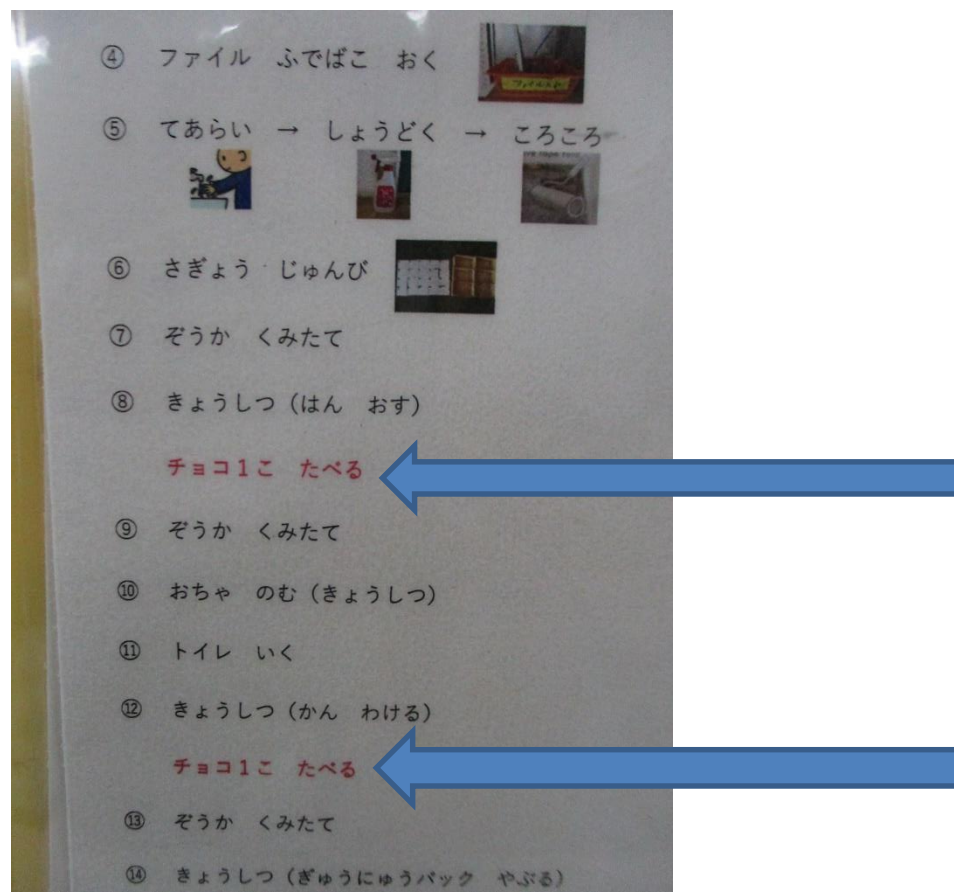


ご褒美について

- お菓子が好きならば，作業が終わったらもらえているシールをお菓子に交換する。
- お菓子の交換のタイミングは，1回の作業でお菓子に交換するくらいでもよい。
- 作業に取り組んだらご褒美を獲得することができるようにする。作業を長時間・量を多くできたらではなく，作業に取り組むことが楽しいと思えるようにする。

アドバイス③より

教室での作業の後に**ご褒美のチョコ1個**を
作業スケジュール内に示した。



アドバイザーからの助言④



カームダウンの使い方について

- 教員が出すタイミングがあっていない。
- タイマーは目安。生徒の行動の様子で判断しなくてはいけない。
- 他害行動を予防するためのカームダウンであり、出すタイミングは早すぎるぐらいでよい。
- タイムアウトの行動の基準を決め、カームダウンのスペースを一貫して使う必要がある。

アドバイス④より

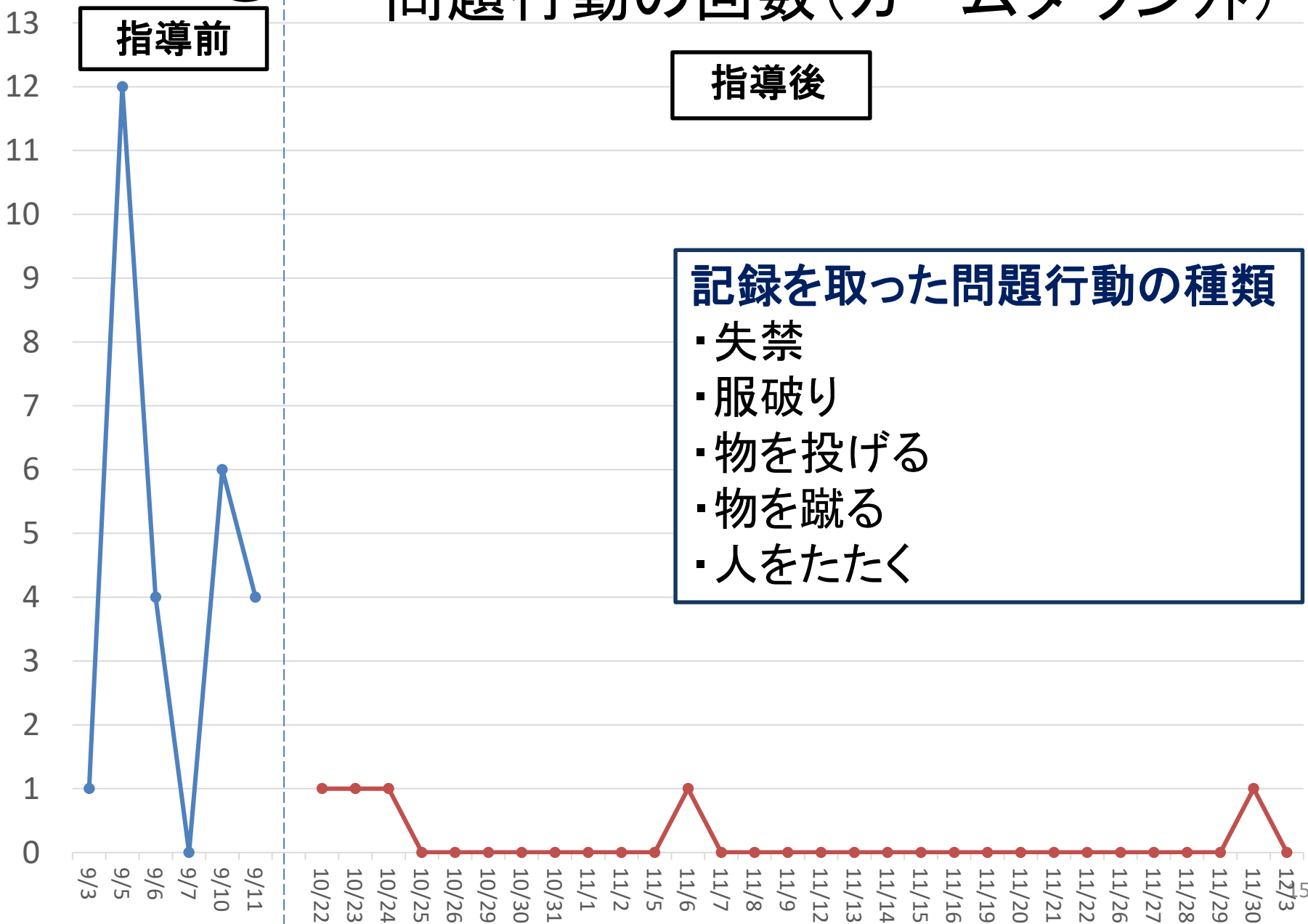
カームダウンの**使い方**、
利用の手続き(入れ方・出し方)を検討し、
担任以外でも指導できるようにした。



利用の手続きをカーム
ダウンスペース横壁に
掲示した

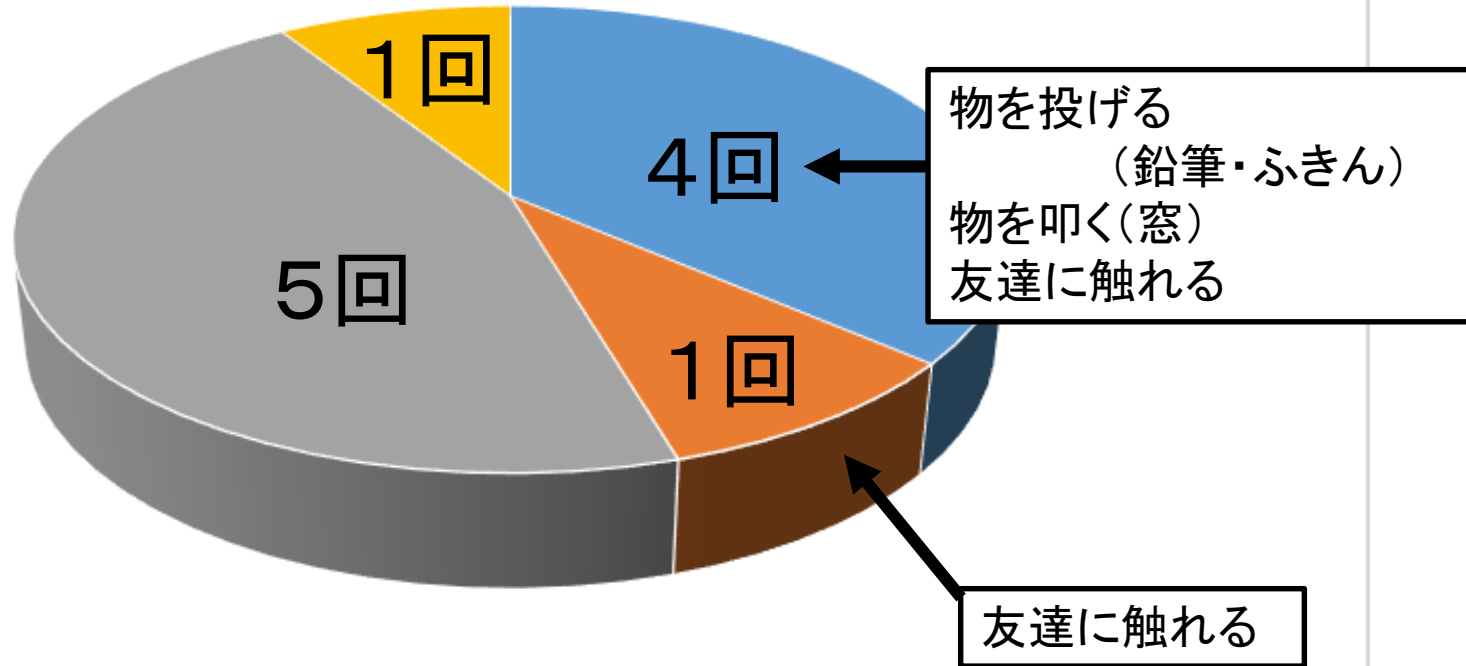
結果①

問題行動の回数(カームダウン外)



結果②

カームダウン利用詳細



- 問題行動後入室
- 問題行動後入室 (静かに過ごす)
- 問題行動前入室
- 問題行動前入室(未遂：静かに過ごす)

結果③

- ・問題行動が起こる前の本人からのサイン（頭が下がる（目線下）、「メロンパンある？」と言う、表情がくもる、服に穴をあける、スケジュールを踏むなど）の想定リストが当たった。
- ・早めにカームダウンへ誘導することにより、問題行動がカームダウン内で収まる事が多かった。
- ・問題行動が減り、落ち着いた生活が増えたことにより、本人の表情が柔らかくなり、笑顔が増えた。

ここが成功のポイント

- 学年全体の教員のサポートにより、本人に対する教員からの指示が減り、結果的に本人が感じるストレスが減ったと思われる。
- 指導方針を統一し、共通理解したことにより、どの教員も指導の方法が分かり、指導がしやすくなった。